

正門



平安時代、弘法大師によって開かれた高野山真言宗の総本山・金剛峯寺。開創1200年を記念して、さまざまな改修整備が進められている。

新別殿 内観



1984年に行われた、弘法大師御入定1150年御遠忌大法会の際、大勢の参詣者への接待所として新設された新別殿。平素は、参拝者の休憩所としてお茶の接待などが行われている。

新別殿 男性トイレ 小便器コーナー



小便器の足元には、尿の飛散によるにおいや汚れを軽減するハイドロテクトタイルを採用。

新別殿 多機能トイレ 入口



男女トイレ同様、障子風の引戸が和の趣を感じさせる入口。トイレの使用対象がひと目でわかるサインを掲示している。

新別殿 トイレ入口



障子風の引戸が、寺院建築にあって和の趣を感じさせるトイレ入口。

新別殿 女性トイレ 洗面コーナー



山地のため冬でも快適に使用してもらるようにトイレ内にヒーターを完備。水栓金具は衛生面と節水性に配慮して、ノンタッチで水の出し止めができ、止め忘れもない自動水栓を設置している。

新別殿 多機能トイレ



車いす使用者のほかオストメイトの方にも配慮し、オストメイト対応トイレバックを設置。冬でも快適に使用してもらるように、ヒーターを完備している。

蟠龍庭



新別殿同様、弘法大師御入定1150年御遠忌大法会の際に造園された蟠龍庭（ばんりゅうてい）。2,340㎡の石庭は国内で最大級の広さを誇る。

新別殿 女性トイレ 大便器ブース



大便器は、フラッシュバルブ式同様連続洗浄が可能なフラッシュタンク式便器を採用し、ウォシュレットを設置。リモコンは、ボタンを押すたびに発電する、乾電池の交換や電源工事が不要なエコリモコンを設置。

新別殿 女性トイレ 大便器ブース



小さなお子様連れに配慮して、女性トイレには大便器ブースにベビーチェアを設置している。

建築概要

名 称	高野山真言宗 総本山金剛峯寺 新別殿
所 在 地	和歌山県伊都郡高野町高野山132
施 主	高野山真言宗 総本山金剛峯寺
設 計	株式会社尾上組
施 工	株式会社尾上組・中上鉄工所
竣 工 年 月	(改修) 2015年3月

水まわりの特長

<施設の概要>
世界遺産高野山は、平安時代のはじめに弘法大師によって開かれた、日本仏教の聖地。和歌山県北部の、周囲を1000m級の山々に囲まれた、標高約800mの平坦地に位置し、100ヶ寺以上の寺院が密集する日本ではほかに例を見ない宗教都市である。東西60m、南北約70mの主殿(本坊)をはじめとした様々な建物を備え、境内総坪数48,295坪の広大さと優雅さを誇る。金剛峯寺は、高野山真言宗の総本山で、開創1200年を記念して、境内ではさまざまな改修整備に取り組んでいる。

<トイレの特長>
今回トイレの改修工事が行われた新別殿。91畳と78畳の2間を有し平素お茶の接待や僧侶の法話などに使用される、金剛峯寺の中でも特に参拝者の利用が多い施設であるため、トイレの順番待ちが度々発生することがあった。改修に当たっては、大便器の連続使用を考慮して、連続洗浄が可能なフラッシュタンク式便器を採用し、ウォシュレットを設置。そのほか、小さなお子様連れや車いす使用者、オストメイトの方などに配慮した設備も充実させている。接待を担当する女性は「お年寄りも立ち座りも楽になったと喜ばれますし、順番待ちの時間も短くなったように感じます」と話している。